



栄養職員部第1回委員会を開催しました!

11月28日(土)に第1回委員会を京都で開催しました。8県の参加があり、事前に提出をお願いした「アンケート」をもとに、2015年度の定期大会・学習会、教育のつどいについて総括を行いました。重点課題については、各県からとりくみの報告を受け、情報交換をしました。

情勢報告

中村副委員長のあいさつの中で、以下のような報告がありました。

- 戦争法案の情勢については、イスラム国への攻撃に直接参加することになれば日本にテロが行われることが現実のものとなる。9月20日の強行直後の世論調査でも5割以上の国民が反対・問題だとしている。全教は、2000万署名を最重要課題として5月3日を目標にとりくんでいる。
- TPPについては、大筋合意であり決まったわけではない。国会決議違反のTPP「合意」は許されない! 即刻撤退を求める食健連の請願署名にとりくむ。ISDS条項によって「地産地消」ができなくなることも考えられる。(委員会での配布資料参照)
- 文科省の来年度の概算要求では、教職員定数の改善として3040人。養護教諭・栄養教諭の定数改善は150人。食育推進のため栄養教諭の配置をすすめるとしている。共同調理場の定数については配置基準の改定も。放射性物質測定検査への支援は4000万円に減額。アクティブラーニングとして主体的協働的な授業が強調されている。今まで実践してきたことであり、文科省が機械的に押しつけることが問題である。すすめるべきは少人数学級の実現である。

*国会で審議されている政府予算案では、養護教諭・栄養教諭合わせて20人の加配増のみに縮小

協議事項

1. 第25回全教栄養職員部定期大会について(ニュースNo.186を参照)

- 日程 8月1日(土) 13時~16時30分
 - 会場 大阪「たかつガーデン」ローズ
 - 出席 代議員36名(43名中) 傍聴5名 ※11組織から参加がありました。
 - 発言 組織拡大・中学校給食・1校1名配置・調理の民間委託・栄養教諭制度・支援学校等
- 2016年度の定期大会は、7月30日(土)東京で開催予定です。
大会後の交流会については、あべのハルカス「桃谷楼」を会場に51名の参加がありました。
大教組のみなさん、ありがとうございました!

2. 全教栄養職員部学習会について(ニュースNo.186を参照)

- 日程 8月2日(日) 9時30分~16時
 - 場所 会場「たかつガーデン」カトリア
 - 参加者 66名
 - 内容 実践報告2本・グループトーク&ランチタイム・実践講座
- 9時30分~11時30分 実践報告(30分)を2本
①中学校給食(大阪) ②センターの食育実践(東京)
- 11時35分~13時30分 グループトーク&ランチタイム
①給食センター ②特別支援学校 ③中学校給食 ④試食会 ⑤世界の料理 ⑥乾物レシピ
- 13時30分~16時 すぐに役立つ実践講座
食指導に使える紙芝居・調理方法の掲示物の使い方と作り方

- ※盛りだくさんの内容で参考になりました。教材作りが楽しかったとの感想が寄せられました。
- その他 レシピ交換については、今回テーマがあって好評だったので、委員会で事前にテーマの希望を募ります。県で意見を聞いておいてください。また、レシピが複数枚になる場合は、綴じたものをお願いします。
試食会や保護者向けの資料をデータ化できないか？全教のHPで保存できないか？との要望が出されましたが、管理チェック等の問題があるため検討課題となりました。

3. 教育のつどいについて（ニュースNo.187を参照）

- 日 程 8月16日（日）～18日（火）
- 場 所 宮城県仙台市「東北大学」
- 分科会 レポート3本（東京・京都・埼玉）
 - ・レポートの本数が少なかったため、充実した議論をする時間がとれました。
 - ・全体会の場で、食のレポートが報告できるとよかったです。
 - ・月～火曜日の分科会が研修と重なり、参加しにくい日程でした。
- 栄養職員部交流会 参加者22名 魚屋三代「彦蔵」 仙台料理に舌鼓しました♪
- その他 司会者を含めてメンバーが交代したことで、前回までの引き継ぎがされていない部分がありました。まとめの全体会では、食のレポートの発表を急ぎょ行いました。

4. 2015年度の重点課題のとりくみについて

- ① 1校1名の署名のとりくみ
第一次集約は、11月末（第1回委員会）
第二次集約は3月末、第三次集約は5月21日予定の第2回委員会開催時とします。
京都・東京では、独自署名も併せてとりくまれています。

要請署名は、1月16日現在3,432筆です。6月の文科省交渉時に提出しますので、たくさんの署名を積み上げられるように、引き続き署名のとりくみをお願いします。
5月末の最終集約までに全教へ送ってください！

※県の独自署名や交渉時の要請文などがあれば、全教までデータを送ってください。

hisasi.n@educas.jp（中村） mineta-0824@educas.jp（峯田）

- ② 栄養教諭制度に対すとりくみ
 - ・免許更新は2期目となりますが、専門分野の講習が少なく受講しにくい実態があります。
 - ・県に受講できる大学がないと、遠方まで行かなければならないので、開設大学を増やしてほしいです。
- ③ 食物アレルギーのとりくみ
 - ・対応指針が出されたあと、「学校生活管理指導表」の提出が義務づけられた県や、その費用の無償化の是非についても交流しました。（東京では一律500円の行政もある）
 - ・和歌山では、10月3日に教組全体で「アレルギーのシンポジウム」を開催し、みんなで考えていくことを中心にとりくみました。
 - ・栄養士や養護教諭だけではなく、学校全体でとりくんでいく必要があります。
- ④ 日本の農業を守るとりくみ
 - ・放射性物質検査については、実施している自治体としていない自治体があり、国の予算があった時期は検査をしていたなど、予算化されているかどうかは左右されています。
 - ・福島県産を使用していないという県もあります。
- ⑤ 組織強化のとりくみ
 - ・各県のとりくみを紹介する「仲間の輪リレー」を継続しています。

・9月26日の「職場活動の活性化、組織の拡大・強化をめざす全国交流集会」で、全教栄養職員部（高宮さん）から特別報告を行いました。

ひとり職種で不安を抱えている新規採用者に対して、寄り添いながら励ましたり学習の機会をつくったりして組合に迎えても、連絡が途絶えるとやめてしまうので、加入後も連絡をとり合うことが重要であることが報告されました。

⑥子どもたちの食をめぐる状況の交流

子どもたちの貧困の現状や、中学校給食の実施状況について意見交流しました。

《各県からの報告》

高知

高知市では、検討委員会によって中学校給食が開始される。（H30年より）3000食のセンター2つになる予定。12月3日に交渉を行う。南国市では、H29年から開始するための用地を確保しているが、センター方式では子どもたちに寄り添うのは難しいと感じる。高知県や高知市でも生活保護が多く、貧困が広がっている。給食は「出せばよい」ものではないことを訴えたい。

京都

配置がなくなり数が減ったり地域が広範囲だったり、組織的につながることが難しくなっている。若い組合員は学習会の企画など活躍している。中学校給食については、府下で増えているが、デリバリー方式が多い。八幡市ではH29年から親子方式で、民間ではなく直営で実施される。

大阪

大阪市長・府知事のダブル選挙では維新政治を変えられなかったが、人勧実施のために維新を当選させない共同を広げることができた。12月24日に府教委と交渉。中学校給食については、選択制・民間調理場活用方式（デリバリー）で広がっている。大阪連絡会では1月30日の「シンポジウム」で、TPPと食の安全についての学習会を行う。

埼玉

12月には全教で実施した「教材や展示物をつくろう」の実践講座、2月には「偏食指導の原則」の学習会を行う。6月の「おだし」学習会は、加入した若い組合員が企画した。狭山市ではPFI方式になっているが、献立と研修は県費の栄養士が担っている。

奈良

県栄養士会が協議会に100%加入していることで、会費の補助があり教材研究も出張扱いになる。組合では、配置の矛盾について改善するようとりくんでいる。勤務条件に対する攻撃があると組合の必要性がわかる。学習しながら加入をすすめていきたい。

広島

県教委交渉で任用替えについて要望していたが、ようやく100名の栄養教諭が配置され、授業やアンケートや巡視の実態調査が、全員対象から新規のみとなり、負担が減った。栄養教諭の新規採用についてはまだない。呉市では市長公約による中学校給食が弁当形式で始まった。（希望者のみ・40%の喫食率）

和歌山

10月に「学校給食の食物アレルギー事故を防ぎ、安全で楽しい学校給食を考えよう！」の学校給食シンポジウムを開催した。基調講演は全教部長の猪瀬さんより、文科省から出された「対応指針」と学校での課題について、わかりやすい報告があった。給食センターの統合による栄養士の配置数減少や、給食業務の民間委託化がすすみ、様々な問題点が出てきている。

東京

沖縄料理学習会に25名の参加があり、定例化していきたい。東京教研は集まりやすい土曜日に日程を変更している。2月はイタリア人のシェフによる「スローフード」の学習会を行う。4月の第2土曜日に新採歓迎会を企画している。東京では中学校給食の実施は、当たり前になっている。

《全国青年教職員学習交流会TANE!》

1月30、31日に、奈良県橿原ロイヤルホテルで全国青年教職員学習交流会がありました!

1日目 全体会

★演題「いい先生より、幸せな先生になろう」

★講師 北村年子さん(ルポライター・自己尊重トレーニングトレーナー)

著書「子どもに『ホームレス』をどう伝えるか」でも有名な北村さんを講師に、常にどんな人であってもホームレス状態になりえること、その上で路上生活者との関わりを経て子どもたちと成長してきた経験を語っていただきました。それは、路上生活者の話にとどまらず、自尊心を育むこと、自分を大切にすることなど、深く掘り下げた内容でした。「いい子、上手な子、頑張る子」であることを褒めるのではなく、「ありがとう」で自尊感情を養える教職員であれという言葉に、会場中がざわつきました。自分を大切にすること、それから子どもも大切にすること、「いてくれるだけで、ありがとう」と子どもに言うことを大切にしようと、北村さんは言います。学級担任のようにずっと一緒にいられる存在でないからこそ、栄養職員である私たちにとっても重要な視点だったと感じました。



1日目 分科会

特徴は、学校で働く幅広い立場や幅広い職種(事務、栄養士、小・中・高校、特別支援、定時制の先生など)からのレポート報告があったことです!全国の青年たちが多くの視点からの報告を聞くことで、新たな考え方の種をもらうことができたと思います。

⑧の食教育分科会には、全教栄養職員部常任から東京の松本恭子さんがレポーターとして参加しました。「食教育で輝く子どもたち～体験が言葉を豊かにし、言葉が体験を深める～」と題して、栄養職員としてどのような視点で献立を考えているか、教科・領域の中でどのように食教育をすすめているのかを報告しました。分科会の後半では、全国の多様な現場ですすめられている食教育の方法や現状を交流しました。



～参加者からの感想～

- ・松本さんの食育実践がすごく楽しそうでした!子どもの学び(教科や行事)とリンクして体験できることが子どもにとってどれほど栄養になっているかと思います。
- ・自分の知らなかった現場の状況が分かりました。“食”に対する考え方を自分なりに伝えていきたいと感じました。
- ・学びと経験を結びつける良い取り組みだと思います。できる範囲で自分も取り入れてみたいと思いました。食べる=学びというのがよく分かりました。
- ・様々なとりくみのアイディアがたくさんで、私自身養護教諭としていますが視覚や体験を通して学べる教材ばかりでした。
- ・やっぱり自校だ!という思いや、当局の主張を崩していくための具体的な論拠を得ることができました。運動に生かしていこうと思います。
- ・子どもたちに体験させて、気づかせて、学びにつなげる指導はとても魅力的だと思いました。私はまだまだ積極的に活動ができていないので、しっかり勉強して、授業にもどんどん入っていきたくと思いました。
- ・栄養士が子どもたちの未来を創造していること、調理師によって味が変わること、担任の先生方の苦勞等、教科指導だけでなく子どもの人格形成を真剣に考えている先生もいて、心温まりました。
- ・食育は以前から必要性を感じていて、担任として栄養教諭とコラボして授業実践をすることは大切だなあと改めて感じました。今回のレポートを参考に、実践できる環境づくりをしていきたいと思います。



2日目 講座

全教本部の先輩方を中心に講師を務めていただいた8つの講座がありました。少人数分会をはじめ、職場での組合活動のアドバイスや、校長交渉の模擬実践など、具体的な内容がたくさんありました。